

教師は授業で勝負する。教師にとって授業の上手、下手は、生徒との信頼関係に大きく影響してくることは言うまでもない。実際、授業が上手にできない先生の言うことは生徒も聴かない。逆に、授業が丁寧で分かりやすい先生の指導には生徒もよく従うものである。

生徒が学校で過ごす時間の大部分は授業であり、その授業がつまらないもの、わけの分からないものであるならば、生徒にとってこれほど不幸なことはない。毎年、年度当初に学校経営の最重要課題として、「授業の改善」が掲げられる所以である。

これまでも分かりやすい授業、力のつく授業については、職員会議等でお話してきたが、以下に5点確認しておく。

① 基本的なことをしっかりやる。

声の大きさ、板書の仕方、質問の仕方、間の取り方、立ち位置、目線、机間巡視等々。声が低くて聞き取れなかったり、板書が汚かったりすると、それだけで生徒はもうやる気を失ってしまう。教師が常に教壇の真ん中にいると、板書しづらくなったりもする。

② 本時のねらいを明確にする。

本時、何を理解させ、身につけさせたいのか、まず授業者は自らが明確でないといけない。そして、生徒にも明確に示すことが必要である。

③ 授業の構成、展開に配慮する。

授業が単調にならないようメリハリをつけることが大事である。単調な授業は、生徒にとって退屈だけでなく、どこが重要なのが分かりにくくなってしまう。たまには脱線することで、逆に生徒を授業に引きつけることもある。無論、脱線しっぱなしはよくない。

④ 生徒の活動、発言をできるだけ多くする。

教師側からの一歩通行では、生徒は眠くなってしまう。作業をさせる、簡単な演習問題を解かせてみる、場合によっては、毎時間必ず全員の生徒にあてて発言させるなど、生徒に授業に参加している、という実感、達成感をもたせることが重要である。

⑤ 評価の場面を必ず設定する。

②と関連してくるが、本時のねらいが達成されたかどうか、毎時間、評価（確認）することを忘れてはならない。自分で前の授業はとてもうまくできたなど思っている、次の時間に当てて発表させたときに、意外と答えられないケースがある。これは、前時に評価（確認）していなかったためで、教師の自己満足でしかなかったということになる。これは大切なことで、これをやらないままどんどん授業を進めても、学力は定着しない。

教師たる者、日々、分かりやすい授業、力のつく授業の実践を目指し、研鑽に励まなければならぬ。そのための方策として、授業参観はとて有益と考えている。なぜなら、普段、自分では気づかなかつた色々なことを発見したり、逆に相手から指摘してもらったりできるからである。私は、授業に完璧ということはなかなか無いだろうと考えている。どんなに上手に授業をやったと思っても、必ず改善点があるからである。だから、毎時間毎時間、「授業の改善」が必要なのであり、教師の力量に磨きをかけてほしいのである。